

(概要版)

小学校低学年において働くことのよさを感じ 自己有用感を高められる児童の育成

— 補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫を通して —

長期研修員 和地 孝之

主題設定の理由

中央教育審議会答申(平成17年)

自己有用感

集団の中で自分が大切な存在
であることを認識すること

を高める必要がある。

低学年は、自己有用感を高める基盤となる時期である。

そのためには…

- みんなの役に立っている **満足感**
- 喜ばれているなどの **充足感**
- 自分に対する **自信**
に注目することが大切です！

学習指導要領改訂(平成20年)

小学校低学年 勤労の内容項目4-(2)

「働くことのよさを感じて、
みんなのために働く」

新設

働くことのよさ

役に立つ
うれしさ

やり
がい

自分の
成長

低学年の児童は…

- みんなのために働くことを楽しく感じる時期です。
- 清掃活動、係活動、お手伝いなど多様な体験をしています。

低学年において学校生活や家庭生活で働くことのよさを感じることによって自己有用感を高めることができると考えた。



本研究の着眼点

働くことのよさの視点から実態を把握し

補充、深化、統合

を意図した道徳の時間を構想

道徳の時間は
道徳教育の
要

- 児童の実態に応じた道徳の授業の構想。
- 道徳の時間のねらいが明確になる。
- 明確な意図をもった指導の工夫を行うことができる。

働くことのよさを感じ 自己有用感が高まる

研究の構想

実態の把握

- ・道徳の年間指導計画や別業などで指導の内容を確認する。
- ・「役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長」の視点に照らし合わせ、児童を観察したり事前アンケートを行ったりし、実態を把握する。

実態の分析

- ・三つの働くことよさで補充すべきことはないか。
- ・実態からみて深化、統合すべきことはないか。

みとりカード

実態の把握や分析には、みとりカード(働くことよさを感じている児童の様子を記載)を活用します。

補充は深化、統合の基盤

三つの働くことよさを基盤にして深化や統合することで、より考えを深めたり広げたりすることができる。

働くことよさを感じ自己有用感を高められる児童

勤労の学習過程

体験活動

課題意識をもった
清掃活動
係活動
お手伝いなど

働くことよさ

選択

道徳の時間

補充
深化
統合

指導の工夫

指導の工夫

指導の工夫

道徳的実践力の高まり

道徳的実践

働くことよさを感じながら
取り組む
清掃活動
係活動
お手伝いなど

働くことよさを感じる力

そうじは、だれのためにしているのかな？

働くってなんだろう？

友達のために係活動をがんばるぞ。

働くことよさを意識する。

働くことよさについてとらえたり考えたりする。

働くことよさを実感する。

補充を意図した道徳の時間

構想のポイント

今まで感じにくかったまたは気付いていなかった働くことよさをとらえることで、そのすばらしさを感得することができるようにする。

働くことよさ

役 や 成

補う

役 や 成

とらえる

実態の把握と分析(一年生)

- お手伝いを経験した児童は多いがお手伝いをする中で自分自身が成長することについて感じたり気付いたりする機会が少ないと実態を把握した。
- 「自分の成長」について補う必要があると分析した。

資料選択: 三つの働くことよさをとらえられる資料。

| | 主な指導の工夫 ○意図 | ●具体例 |
|------|--|--|
| 展開前段 | <p>三つの働くことよさを整理した板書</p> <p>○三つの働くことよさを整理して示すことで、働くことよさ「自分の成長」をとらえやすくする。</p> | <p>役: がんばると、家族のためになって喜んでもらえるから。</p> <p>や: 家族みんなにほめられてうれいから。</p> <p>成: お風呂掃除が上手になるから。</p> |
| 展開後段 | <p>補う価値を感じた体験と心情の想起</p> <p>○自己の体験にも今まで感じていなかった「自分の成長」があることに気づき、そのすばらしさを感得する。</p> | <p>●「今までに、お手伝いなどをして上手になったことがありますか。そのときの気持ちも教えてください」</p> |

自分の成長のとらえ

「家族のために玄関掃除をしてほめられた。『きれいに掃けるようになったね』ってほめられてうれしかったよ。もっと上手になりたいな」など自己の成長をとらえることができた。

深化を意図した道徳の時間

構想のポイント

働くことのよさや他者の価値観の多様性を知り自分の価値観を見つめ直すことで、深く考えることができるようになる。

働くことのよさ

役や成

深める

役や成

み
つ
め
な
お
す

実態の把握と分析(二年生)

○係活動に「やりがい」を感じ取り組んでいるが、友達のために活動に取り組むという視点からは、あまり深く考えてはいないと実態を把握した。

○「役に立つうれしさ」についての考えを一層深める必要があると分析した。

資料選択:身近な体験を通して深く考えるため日常体験が描かれている資料。

| | 主な指導の工夫 ○意図 | ●具体例 |
|------|--|---|
| 導入 | 資料と同様の勤労体験の想起 ○展開で資料の主人公と自分を重ねあわせることで価値や自己を見つめ直すことにつなげる。 | ●「どんな気持ちで係活動に取り組んでいますか」 |
| 展開前段 | 多様な価値観が表れる発問 ○他の考えと比較することにより、自分の価値観を見つめ直す。 | ●「ポスター係ののぶ君ははっとしたときどんなことに気が付いたのでしょうか」(見方を変えた考えができるように補助発問を行う) |
| 展開後段 | 資料と同様の勤労体験の想起と意見の交流 ○資料中で深めた考えを基に、自分の感じ方や考え方を交流することで見つめ直す。 | ●「係の仕事をしてみんなのためになったなと感じたことはありますか。またなぜ係の仕事をしたと思ったのですか」 |

役に立つうれしさの深まり

「係活動をするとみんなのためになる」の考えから「みんなのためになるしみんなもうれしいし自分もうれしい」など一層考えを深めることができた。

統合を意図した道徳の時間

構想のポイント

働くことのよさについて資料以外の勤労体験にも広げて考え、新たな感じ方や考え方をもちつめることができるようになる。

清掃活動
役や成

新たな感じ方や考え方

係活動
役や成

お手伝い
役や成

資料中の体験
役や成



自己

関連付ける

…など

ひろ
げ
る

実態の把握と分析(二年生)

○係活動や清掃活動など活動の内容によって取り組みに差がみられると実態を把握した。

○働くことのよさについて全体的に考え、新たな感じ方や考え方をもちつめる必要があると分析した。

資料選択:どの勤労体験にも働くことのよさがあることに気付けるよう日常ではあまり体験しない勤労体験が描かれている資料。

| | 主な指導の工夫 ○意図 | ●具体例 |
|------|---|--|
| 導入 | 勤労場面の絵や写真の提示 ○多様な働く場や人を想起し、それぞれ関連がありそうだと感じる。 | ●こころのノートを活用し多様な勤労場面を提示。消防士について働くことの大変さとよさを考える。  「消防士さんは、あつくて大変だけどみんなのために働いているよ」 |
| 展開後段 | 多様な勤労体験から働くことのよさを見つけだす発問 ○どの勤労体験にも働くことのよさがあることに気づき新たな感じ方や考え方をもちつめる。 | ●「働いていて大変だな、よかったなと思ったことはありますか」 |

働くことのよさのひろがり

「係活動も給食当番も友達のために頑張ろう」「どの仕事もみんな大切な仕事なんだな」など、多様な勤労体験を関連付け、新たな感じ方や考え方をもちつめることができた。

道徳的实践

補充、深化、統合を意図した道徳の時間を通して高まった道徳的实践力を生かし、働くこと
のよさを感じながら勤労の体験に取り組むことで、より自己有用感を高めることにつながる。

補充を意図した道徳の時間を生かした道徳的实践

一年生
お手伝い

〈みとりのポイント〉
「自分の成長」など
の働くことのよさを
とらえている。

「家族のためにお皿洗いを頑張った。『上手になったね』ってほめられて嬉しかった」など89%の児童が満足感や自信をもつことができた。また、保護者からの励ましの言葉やお礼の手紙により、お家の人の喜びや期待が伝わり充足感などを感じることができた。



深化を意図した道徳の時間を生かした道徳的实践

二年生
係活動

〈みとりのポイント〉
今までより相手の気
持ちを考えて役に立
つように働いている。

誰もいない昼休みの教室で整頓係の児童が「遊びから戻ってきた時みんながうれしいと思うからやっているんだよ」と答えながら机を整えていた。自分の係の仕事が他の人の役に立っているという満足感などをもち取り組んでいることが感じられた。

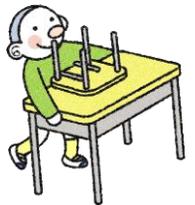


統合を意図した道徳の時間を生かした道徳的实践

二年生
日常の勤労体験

〈みとりのポイント〉
多様な勤労体験に目
をむけ、新たな感じ方
や考え方もって働
いている。

清掃活動には積極的だが係活動には消極的であった体育係の児童が「みんなが元気に体操ができるように大きな声を出しているんだよ。掃除と一緒にだね」と話した。清掃活動と同様に係活動からも働くことのよさに気づき自信をもつことができたことが感じられた。



成果と課題

成果

- 補充、深化、統合を意図した道徳の時間を行ったことで、授業のねらいが明確になり、何をどのような視点から考えればよいのかが児童にとって具体的になり、働くことのよさについて考えを深めることができた。
- 補充、深化、統合を意図した道徳の授業を行ったことで働くことのよさを感じる力が高まり、道徳的实践に生かすことで勤労の学習過程を通して自己有用感を高めることができた。

課題

- 補充、深化、統合それぞれの特性をより明確にするため、意図した指導の工夫をもう一度整理し、まとめ直す必要がある。



問い合わせ先

群馬県総合教育センター

担当係：研究企画係 0270-26-9212(直通)